



257 号

2020/10

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp/



宝興県のチベット族：四姑娘山の西南に山を越えて隣接する宝興県はパンダの棲息地としても知られてい
ます。此処に住む人達はギャロンの領主に長く支配されていて四姑娘山と同じギャロン・チベット語を話しチ
ベット族に分類されていますが、家屋の装飾や住民の衣装は元々の羌族に近く、この老人の衣装も伝統的な
羌族のものです。 (四川省雅安市宝興県にて 2007年9月 四姑娘山自然保護区管理局特別顧問=大川健

'わんりい' 2020年10月号の目次は20ページにあります

この四字成語、日本では、このままでは使われませんが、この後に続く、「漁夫の利」という言葉がよくつかわれます。

・>・>・>・>・>・

ある日、大きなカラスガイが水辺で日光浴をしていました。暖かい日の光が燦燦と降りそそぎ、カラスガイはとても気持ちが悪くなって、ゆっくりと殻を開いて、体全体で日光浴を楽しんでいました。ところが何としたことか、丁度その時一羽のシギが河岸で餌を探していました。シギはカラスガイが殻を開いているのを見つけて、そ〜と近づいて来ました。

パクッとシギがカラスガイをくわえようとする、貝も痛みを感じてさっと殻を閉じたので、シギは嘴を挟まれてしまいました。シギは嘴が痛いので、カラスガイに殻を開いて欲しいのですが、カラスガイは殻を開くとシギに食べられてしまいそうで、怖くて開けられません。

彼らが自分たちの争いに気を取られている丁度その時、漁師が通りかかり、シギとカラスガイ両方を何の苦も無く手に入れてしまいました。

・>・>・>・>・>・

言葉の意味: 鶻=水鳥の一種、シギ、蚌=カラスガイ、ドブガイとも言う。淡水にすむ二枚貝、真珠が取れる。双方が譲らず争っているうちに、第三者が得をするというたとえ話。

使用例: 古今東西、拮抗した両者が争うと第3者が得をするものだ。

・>・>・>・>・>・

今月のお話は、「戦国策」という本に出ています。

「戦国策」は、漢の時代に劉向りゅうきやうという人が、周の時代から秦の統一まで250年の間に活躍した縦横家じゅうおうかの権謀術策を、当時の資料で国別にまとめて、彼らが活躍した戦国時代にちなんで「戦国策」と名付けたものの一部分です。

このお話は、「戦国策」の燕の国の項えんに出てきます。戦国時代、趙ちやうが燕に攻め込む計画を立てていると知って、燕の国王が宰相そだいの蘇代を趙に派遣して侵攻をやめるよう説得した時、蘇代が趙の国王に話したものだそうです。カラスガイとシギは趙と燕。互いに争っていると、秦の勢力拡大を助けるだけだから、やめましようと言ったのです。趙王はこの話を聞いて、燕への攻撃を取り止めました。因みに、燕の宰相



挿絵満柏氏

蘇代は、六国（燕・趙・韓・魏・斉・楚）の合従かんぎせいそがっしやう策で秦の拡大を食い止めた蘇秦の弟だそうです。

日本では「ハマグリとシギ」が争っていることになっていますが、楚代は趙王に話をするとき、「こちらへ来る途中、易水のほとりで〜」と話しているので、このお話に出てくる「蚌」は淡水の二枚貝、ドブガイとかカラスガイのような大きな二枚貝のようです。尤も、日本語の「ハマグリ」も古来、かなり曖昧な使い方をされているようで、二枚貝なら何でも「ハマグリ」と呼んでいたようですから、これで正しいのかもしれませんが。

「鶻蚌相争」の後に「漁翁得利」と続いていて、中国ではこの前半の方を多く使います。それに引き換え、日本では後半だけが独立して「漁夫の利」として使われ、意味を説明するときだけ、この「ハマグリとシギの争い」が語られます

李白の詩「秋浦の歌」と「独り敬亭山に坐す」

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

今回は李白の詩を取りあげてみましょう。

秋浦の歌 李白

白髪ざんばら三千丈
悩みやつれたこの姿
照らす鏡にさて思う
どこでもらった秋の霜

「白髪三千丈～」といえ、皆さんすでにお馴染みで、今さら下手な翻訳の必要もないかと思いますが、原詩に込められた悲哀の中に漂う、どことなく川柳に似たユーモラスな雰囲気、敢えて訳出してみました。

独り敬亭山に坐す 李白

高く飛び去る鳥どもに
ついで消えゆく断雲
相見ても飽かぬ朋輩は
敬亭山と私だけ

敬亭山は、かつて李白が憧れていた南朝・齊の自然派詩人謝朓が、宣城（今の安徽省宣城市）の太守のころ好んで登ったと伝えられる山です。李白もこの山をこよなく愛していたようです。この詩のおかげで、この山は李白と共に名を千載に残すことになりました。

[原詩]

qiū pǔ gē lǐ bái
秋 浦 歌 李 白
bái fā sān qiān zhàng
白 发 三 千 丈
yuán chóu sì gè cháng
缘 愁 似 个 长
bù zhī míng jìng lǐ
不 知 明 镜 里
hé chù dé qiū shuāng
何 处 得 秋 霜

[訓読]

しゅうほ うた
秋浦の歌
り はく
李白
はくはつ さんぜんじょう
白髪三千丈
よ か ごと
愁いに縁りて箇くの似く長し
めいきょう うち
知らず明鏡の裡
いず ところ しゅうそう
何れの処にか秋霜を得たる

[原詩]

dú zuò jìng tíng shān
独 坐 敬 亭 山
lǐ bái
李 白
zhòng niǎo gāo fēi jìn
众 鸟 高 飞 尽
gū yún dú qù xián
孤 云 独 去 闲
xiāng kàn liǎng bù yàn
相 看 两 不 厌
zhī yǒu jìng tíng shān
只 有 敬 亭 山

[訓読]

けいていざん
独り敬亭山に坐す
り はく
李白
しゅうちやう つ
衆鳥高く飛んで尽き
こうん
孤雲独り去って閑なり
あいみ ふた いと
相見ても両つながら厭わざるは
た けいていざん
只だ敬亭山有るのみ



敬亭山(百度百科から)

今日のお題は陳子昂の『幽州の台に登る歌』と駱賓王の『易水送別』という作品でした。陳子昂は661年生まれ、初唐の詩人です。富豪の家に生まれ、奔放な少年期を送っていましたが、18歳より学問に励み、科挙に合格します。693年、右拾遺という職につき、その後、契丹征伐に加わります。この征伐軍は時の権力者則天武后一族の武攸宜が軍を掌握し、陳子昂の献策は全く聞き入れられませんでした。それなのに、惨敗を喫した責任は、陳子昂に押し付けられ、そのせいで左遷させられています。698年に父親の看病のために辞職して故郷の四川省に帰郷します。

ところが、父の死後、その財産に目をつけた地元の県令(県の長官)に無実の罪で投獄され、獄中で亡くなりました。まさに悲劇の詩人です。702年没ですから、41年の短い生涯でした。

では作品を見てみましょう。

登幽州台歌

chén zǐ áng
陳子昂

qián bú jiàn gǔ rén
前 不 見 古 人
hòu bú jiàn lái zhě
后 不 見 来 者
niàn tiān dì zhī yōu yōu
念 天 地 之 悠 悠
dú chuàng rán ér tī xià
独 怆 然 而 涕 下

「古人」とは、自分より前の先輩、昔の人、先人という意味で、「来者」とは、後輩、未来の人、次世代の人という意味です。現在に生きる私たちは、過去の人たちに思いを致し、また未来の人たちのことを想像することはできても、その人たちに実際出会うことはない。前半の二句はそのことを言っています。「天地の悠悠たるを念い」とは、この大きな宇宙のなかでは、自分の存在はちっぽけな

幽州の台に登る歌

ちん す ごう
陳子昂

まえ こじん み
前 に 古 人 を 見 ず
のち らいしゃ み
後 に 来 者 を 見 ず
ちゅうしゅう おも
天 地 の 悠 悠 た る を 念 い
ひと そうぜん なみだくだ
独 り 怆 然 と し て 涕 下 る

一点に過ぎない。「愴然として涕下る」とは、それを思えば悲しさのあまり涙があふれる、ということです。

僅か22文字ながら、雄大な宇宙に対比された、人間の生命の儚さが痛いほど伝わる作品ですね。「こういう思想は、老荘思想にもありますね。自然は果てしなく雄大で、人間もその中のほんの一部に過ぎない、だからその生死に一喜一憂することはない、というのが老荘思想ですよ。でも、陳子昂はそうは言っていません。逆に、天地から取り残されてなお生きる己の孤独に思いを致し、その現実に涙しているのです」と植田先生。

この作品の歴史的背景を知らなくても、人間であれば誰でも共感出来るような、心に訴え掛ける力強さを感じます。言葉の力とはこのことを言うのでしょうか。

この詩は、則天武後の命を受けて北方の契丹征伐に行った時、戦場で詠まれたと考えられます。これに関連してもう一首、『薊丘覽古』という詩があります。やはり陳子昂の同時期の作品です。

薊丘覽古

chén zǐ áng
陳子昂

nán dēng jié shí bǎn
南 登 碣 石 阪
yáo wàng huáng jīn tái
遥 望 黄 金 台
qiū líng jìn qiáo mù
丘 陵 尽 乔 木
zhāo wáng ān zài zāi
昭 王 安 在 哉
bà tú chàng yǐ yǐ
霸 图 怅 已 矣
qū mǎ fù guī lái
驱 马 复 归 来

薊丘覽古

ちん す ごう
陳子昂

けいせきかん
南 の か た 碣 石 館 に 登 り
おうごんたい
遥 かに 黄 金 台 を 望 む
ことごと きょうぼく
丘 陵 尽 く、 喬 木 に し て
いず
昭 王 安 く に 在 り や。
は と ちよう や
霸 图 怅 と し て 已 み ぬ
か ま
馬 を 駆 っ て 復 た 帰 り 来 た る。

「薊」とは現在の北京の一部地域の古称です。「丘」とは小高い台地のこと。春秋戦国時代、この地に燕えんという国があり、昭王という有名な君

主がいました。昭王は各地から優秀な人材を集め、豪華な宿舎を与えて住ませました。碣石館とは、燕の昭王が自ら招いた指導者達を住ませた建物です。有能な人士に黄金を振る舞ったので、その場所は黄金台と呼ばれました。しかし、その丘は今では雑木だらけで、見る影もありません。昭王も一体どこに行ってしまったのだろうか、霸王となって天下に号令するという野望は悲しくも頓挫してしまったのだ。そんな歴史に思いを馳せながら私は馬を駆ってまた引き返してきた、という内容です。

昭王が積極的に優秀な人材を求め取り立てたことは「まず隗より始めよ」という諺にも残っています。昭王が郭隗という臣下に人材募集について相談したところ、郭隗は、まずこの私を登用してくださいれば、郭隗でも登用されるぐらいだからということで、有能な人材がたくさん集まってきますよ、と答えました。「まず隗より始めよ」とはそういう意味です。案の定、昭王の下には優秀な人材が数多く集まってきて、燕の国は大いに栄えました。

今では、「遠大な事業や計画を始めるときには、まずは手近なところから着手するのがよい」、或いは「物事は言い出した者から始めよ」という譬えに使われますが、これは遙か昔の実話から生まれた言葉だったのです。その燕も、太子丹の時代になって、荊軻という男を刺客に雇い、秦の始皇帝の暗殺を企てました。しかし、今一步のところで失敗し、やがて燕は滅亡してしまいました。この話はまた後に出てきます。

さて、この二首を併せて読むと、陳子昂の当時の心情がよく分かりますね。前の詩の題名にある「幽州の台」とは薊丘の黄金台のことです。北京から遼東一帯の北方の広い地域は昔、幽州とも呼ばれていました。

かつての昭王のような、有能な人材を愛する名君はもうこの世にいない。仮にそのような君主が

将来現れるとしても、自分にはもはや出会うことはないだろう。それを思うと悲しくてたまらない。自分とは言えば、必勝の献策を無視された上に、敗戦の責任まで負わされる。この詩の作者陳子昂が、武后一族の理不尽な仕打ちに耐え、歯を食いしばって生き抜いたことは、想像に難くありません。「前に古人を見ず、後に来者を見ず」という詩句の裏には、このような戦場での実体験があったのです。

次は駱賓王（640?～684年?）の『易水送別』という詩をご紹介します。これは、燕の太子丹の刺客、荊軻のことを書いた『史記』荊軻伝を典故として作られた詩です。

駱賓王は前半でご紹介した陳子昂より20年程先輩に当たる、初唐の詩人です。王勃、盧照鄰、楊炯と並ぶ初唐四傑の一人に数えられています。生卒年もハッキリしておらず、有名な割には謎多き人物です。

唐の高宗の時代に長安の主簿（庶務を司る官吏）を歴任しましたが、則天武后が政治の実権を握ると左遷されたために、不満を抱いて辞職したそうです。

684年に武後の即位に反対して徐敬業が兵を挙げると、駱賓王もこれに加担し、名文句として後に歴史に残る檄文を書きました。

その檄文の一節に「一杯之土未干，六尺之孤安在（一杯の土未だ乾かざるに、六尺の孤安くにか在る）」という言葉がありました。「一杯の土」とはひとすくいの僅かな土。「一杯の土未だ乾かざるに」とは、死んだ人の墓の土が乾かないうちに、という意味で使われます。ここでは亡くなったばかりの高宗のことを指しています。「六尺の孤」というのは『論語』にも出てくる言葉ですが、君主の遺児、皇子のことです。六尺は今でいうと身長180センチをこえる大男になってしまいますが、この時代の尺貫法だと、1メートル35センチで、子供の背丈を表します。ここでは明らかに、高宗が亡く

なって日も浅いうちに、幼い皇子を差し置いて自ら皇帝の位に就こうとした則天武后を非難しているのです。

さて、この檄文を見た則天武后は、自分を非難する内容でありながら、その文章の素晴らしさにゾクッと来たわけです。「これは素晴らしい文章だ！ こんな名文を書く人物を放っておくとはなんたることだ！」と時の宰相を叱り付け、駱賓王の行方を探させたそうです。

則天武后といえは歴史上悪名高い独裁者ですが、このエピソードからみると、なかなか度量の広い識見に富んだ女性であったようです。しかし、駱賓王は則天武后の手元に連れ戻されることはなく、その年の冬、徐敬業が敗れると共に死んだとも、逃れて僧侶になったとも言われているそうです。

さて、芥川龍之介はその著書『^{しゅじゅ}侏儒の言葉』に、駱賓王のこの檄文の一節を優れた扇動家の言葉として引用しています。芥川龍之介は徐敬業のことを李敬業と書いています。敬業の祖父は唐王朝成立の際に功績があつて、君主と同じ李という姓を賜っていました。しかし、敬業が謀反を起こして敗死したので、則天武后によって元の徐姓に戻されていたのです。

yú yì shuǐ sòng rén
于易水送人

luò bīn wáng
駱賓王

cǐ dì bié yàn dān
此地别燕丹

zhuàng shì fā chōng guān
壮士发冲冠

xī shí rén yǐ méi
昔时人已没

jīn rì shuǐ yóu hán
今日水犹寒

えきすいそうべつ
易水送別

らくひんのう
駱賓王

この地 燕丹に別れ

壮士 髪冠を衝く

昔時の人已に没するも

今日水猶お寒し

前置きが長くなりましたが作品に戻りましょう。

此の地で、^{えん たん}燕の太子丹に別れを告げ、壮士は怒りのために、髪が逆立って冠を突き刺している。昔の人はすでにいない。だが、今も易水のほとり

はあの時と同じように寒い。

この詩は明らかに、太子丹に見送られ、易水を渡って秦に向かった荆軻に作者自身を擬え、秦の始皇帝に武后を擬えて詠んでいます。怒りのために髪が逆立って、冠を突き刺すようになっているというのは、今では漫画でしかあり得ないようなオーバーな表現ですが、気持ちは分かりますね。『史記』にも同じような表現が見られます。怒りは行動の原動力と言いますが、そこまでの怒りがなければ、生きて帰れる保証などない命懸けの勝負に出られはしなかったでしょう。

時代は違えども、作者はあの時の荆軻の気持ちに共通の想いを抱いています。「^{こんにち な}今日水猶お寒し」の一句は、独裁者に対する怒りの気持ちは今もお消えていない、という宣言のようにも聞こえます。

ちなみに『史記』には荆軻が詠んだとされる次のような歌が載っています。

fēng xiāo xiǎo xī yì shuǐ hán
風蕭蕭兮易水寒

かぜしやうしやう えきすいさむ
風蕭蕭として易水寒し

zhuàng shì yī qù xī bù fù hái zhuàng shì
壮士一去兮不复还壮士 一たび去って復た還らず

陳子昂も駱賓王も実におどろおどろしい時代を生き抜いたんですね。

さて、華やかで豊かな唐代の基礎を作ったということで、近年見直されてもいる則天武后ですが、一体どれほどの人の人生を覆すようなことをしたことでしょう。

則天武后の孫娘であった永泰公主の墓は美しい壁画でも有名です。この孫娘は17歳という若さで死亡しました。夫と兄と共に、則天武后の寵臣たちを排除する謀議を行ったというかどで自殺を命じられました。一説には、身重だった永泰公主は、兄と夫が殺されたショックから流産し、亡くなったともいわれています。

則天武后の墓はといえば、これまた自然の山を利用した巨大なものです。秦の始皇帝といい則天武后といい、中国の独裁者のスケールは、想像を絶するものがあります。

「環肥燕瘦」は、中国人の好きな四文字の成語である。この成語をご存知ない方は、「肥」と「瘦」は分かるが「環」と「燕」は何のことか？と思われよう。「環」とは楊貴妃のことである。前号に記したように、姓は楊名は玉環という。そこから環は楊貴妃のことを表すのである。貴妃は皇妃としての順位を表す称号である。唐代では皇后に次ぐ第2の地位であった。では、「燕」は何かといえば趙飛燕という美女を言うのである。趙飛燕の生まれは長安で、前漢(BC206年～AD8年)時代の人である。

つまり豊満型の美女の代表は楊貴妃であり、スレンダー美女の代表は趙飛燕—という成語で、それぞれ趣があり、どちらがいいかは人それぞれという意味であろう。趙飛燕は卑賤の出であるが、後述のように類いまれなる美貌と踊りが得意で飛ぶ鳥の如く舞ったことから名前も飛燕となり、前漢の第12代皇帝である「成帝」の目に留まりついには皇后まで上りつめたのである。楊貴妃は唐代の8世紀の人であり、二人の生きた時代は七、八百年の開きがある。当然唐代より後の人がこの成語を作ったのであるが、出典は宋代の蘇軾(1037～1101年)の詩からと言われる。趙飛燕と同じ時代には、古代四大美女の王昭君がいるので、もし王昭君が豊満な体形であれば「穠(または昭)肥燕瘦」と言う成語が生まれたかも知れない。

二人の対比については幾人かの詩人に詠われているようであるが、全唐詩の中に在る李白の詩に「清平調詩」三首からなる詩が収められている。第二首に次の詩がある。

〈清平調詩〉

一枝濃艶露凝香 (一枝の艶やかな牡丹に露が宿り、芳香を凝結しているようだ)

雲雨巫山枉斷腸 (楚の懷王が夢で巫山の女神と契つたが、夢から覚めた時断腸の思いをするだろう)

借問漢宮誰得似 (お尋ねするが、楊貴妃の美しさは漢の後宮の誰と比較できようか)

可憐飛燕倚新粧 (それは、お化粧したての可憐な趙



中国香港ドラマ「楊貴妃」2000年より
(楊貴妃役、向海嵐)



中国ドラマ「クィーンズ長安、後宮の乱」
2008年より (趙飛燕役、佟麗婭)

飛燕くらいだろう。だがそのまま美しい楊貴妃とは比べ物にならない)

この詩は、玄宗皇帝が絶頂期にあった時、禁中で貴妃と連れだって咲き乱れる牡丹を愛でた際に李白に作らせた詩である。この時李白は泥酔していたが皇帝から所望されたときたちどころに作り上げたそうである。しかしながら飛燕と対比させた結句について李白にプライドを傷つけられていた宦官の高力士が、「李白はことあるに楊貴妃に対して卑賤の女と比較した」と讒言し、それが為、楊貴妃の李白を憎むところとなり、ついに長安から南方の夜郎に追放されるに至った。以降李白は長安に戻ることはなかった。

清平調詩については2018年の6月の漢詩の会で取り扱い、花岡風子さんの名解説がわりい 236号(2018年9月号)に掲載されているので、興味のある方はご一読いただきたい。

さて楊貴妃から見て行こう。生まれは蜀州、今でいえば四川省成都市の北西部に当たるところだ。美人の誉れ高く後宮に入り、735年16歳で玄宗皇帝の子「寿王」の妻になった。壁画等の類推から豊満な体形であったようだ。才知があり琵琶を初めとする音楽や舞踏に優れていたという。詩も出来たらしく「全唐詩」にも次の一首が載っている。単なる美女ではない。

阿那曲 (あだきよく)

羅袖動香香不已 (踊ると薄絹の衣裳の袖が揺れ動き、

衣裳に焚き込めている香が次々と漂ってきて已む
ことがない)

紅葉嫋嫋秋煙裏 (秋の靄の中に霞む紅いハスの花に
似た嫋やかな姿は一)

輕雲嶺上乍揺風 (輕やかな雲が峰の上で急に風に揺
らいでいる)

嫩柳池辺初払水 (若葉の柳の枝が水面を撫でる様に
動いた)

楊貴妃の半生は、白居易 (772 年~846 年) の「長恨歌」にご承知のとおり詳しく書かれている。白居易の 806 年の作の七言古詩である。この詩は大きく二つに分けられ、前半は絶頂期から安史の乱 (755 年) の時、長安の西にある〈馬嵬〉という小さな町で彼女が近衛兵により処刑されるまでである。後半は安史の乱が落ち着き玄宗が長安に戻ってからの悔恨の日々を送る様子が描かれ、最後に生前二人が誓い合った「天にあっては比翼の鳥になり、地にあっては連理の枝となりたい」の一句で終わっている。

馬嵬で生を終えた楊貴妃であるが、実は彼女は安史の乱を逃れて生き永らえたという話がある。西施も同様であるが、美女は亡くなくてもどこかで生きているという庶民の願望があるのかも知れない。それも日本に亡命したという話である。山口県の長門市にある「二尊院」には、彼女が阿倍仲麻呂と共に来たという伝説があるそうだ。彼女のお墓と伝わる五輪塔 (山口県指定有形文化財) があるという。日本と中国は一衣帯水の地理的關係があるためこのような伝説は散見される。

この長恨歌は、遣唐使を通じて日本に紹介されたのであろうが、当時の平安貴族は皆よく知っていたと思われる。例えば紫式部の「源氏物語」は玄宗と楊貴妃の恋物語を平安王朝風に取り入れて書かれたものと言われている。特に桐壺帝と桐壺更衣の悲恋は長恨歌の影響を色濃く受けているようだ。

ところで、楊貴妃と言えば、「荔枝 (ライチ)」である。中華料理のデザートで時々出る果物だ。楊貴妃が好きなことを知った人々は、取り立てて貰おうと彼女のために人馬が 8 昼夜かけて華南地方から直送していた亜熱帯の植物である。筆者は北京で赤い実が鈴なりになっていたのを見た記憶があるが、亜熱帯の植物が北京でできるのかと問われると自信がない。友人がライチだと言ったので間違いはないと思

うが・・・

楊貴妃についてはまだ書きたいことが沢山あるが紙幅の關係で次に趙飛燕に移りたい。飛燕は、華やかで細身で踊らせたなら天下一品の美人であった。彼女には「趙合徳」という妹がいた。成帝にお願いして皇帝の側室として入宮させ「昭儀」となった。美しさは姉に劣らず姉よりふっくらしていた。おっとりとした外見とは裏腹に姉と同じようにしたたかな女であった。

成帝には、「許」という皇后がいた。彼は許皇后を一時は寵愛し子供も出来たがいずれも夭折した。酒色に耽り暗愚な成帝はいつの間にか趙飛燕を寵愛し、BC18 年に許皇后を廃位しついに BC16 年に趙を皇后に就けたのである。あの玄宗皇帝は息子の嫁を奪ったが、成帝も趙飛燕に目がくらみ糟糠の妻をこともあろうに廃位したのだ。成帝は BC33 年に父の「元帝」の死により即位した。宦官勢力は弱体化していたが、それに代わって生母の王政君の実家の王一族が政治に深く関わるようになった。後の「王莽」による篡奪の遠因となった。AD 8 年に前漢が倒れその時から AD23 年まで王莽による「新朝」時代が来ることとなった。

趙姉妹は、許皇后が廃位となってからはまさにやりたい放題であった。姉妹は帝の寵愛が他に移るのを防ぐため、他の皇妃との間に儲けた皇子を二人も殺害した。そのうち飛燕は帝の寵愛を失っていき、今度は妹に向けられた。妹の昭儀 (合徳) は寵愛を失わないように必死となった。ところが BC 7 年に成帝は突然死するのである。死の間際まで一緒にいた昭儀が原因との噂が流れた。そして帝の急死の責任をとらされ、賜死となったが誠に堂々たる最期であったと言われている。寵愛を既に失っていた飛燕は、成帝亡き後実権を握った王莽に断罪されることになった。皇后から降格されるという目に遭い、更には庶民にまで落とされてしまった。このような屈辱を受け最後は自殺の道を選んだのである。姉妹揃って自ら死を選んだ形になったが、因果応報世の習いといったところか! 正に傾国の美人姉妹であった。成帝後は哀帝、そして平帝と続くが二人とも 6~7 年の在位の後、転がるように大漢帝国 (前漢) は滅び、王莽による 15 年間の短期政権の時代に移っていく。

(続く)

中国の教育部（日本の文科省に相当）によると 2020 年 6 月 30 日現在、中国には 2,740 校の大学（中国語では「普通高等学校」）が存在する（ただし、香港・マカオ・台湾地区は除く）。そのうち、河南省には 151 校が所在する。前回は河南省を代表する大学として鄭州大学を少し紹介した。今回は鄭州大学と並ぶ総合大学である河南大学について紹介することにしたい。私は、2005 年以来、河南大学を何回か訪れる機会があったので、以下ではその思い出を関連資料、同大学の公式ホームページ（HP）等を確認しつつ綴ることにする。

河南大学の公式 HP の「河大概況」を見ると、冒頭に「河南大学は国家『双一流』建設大学であり、『省部共建大学』である。」と書かれている。ここで、「双一流」建設とは、現在中国で進められている高等教育の質的向上政策を指す。この政策は 2015 年 10 月 24 日に國務院から発出された「統籌推進世界一流大学和一流学科建設総体方案」（「世界的に見た一流大学と一流学科の建設を統一的に推進する全体構想」）に始まるものであり、将来有望な大学および学科を認定し、その発展を重点的に支援することを意図している。

この方案によると、その目標は第一段階として 2020 年までに若干の大学と学科が世界一流に並ぶようになり、そのうち、いくつかの学科は世界の最前列に位置するようになること。第二段階としては、2030 年までに更に多くの大学と学科が世界一流に並ぶようになり、若干の大学と学科が世界の最前列に位置するようになって、高等教育全体の実力が顕著に向上することである。さらに、最終的には今世紀の半ばまでに、一流大学と一流学科の数量と実力が世界の最前線に位置するようになり、高等教育強国を基本的に建設する、と明記されている。

今年（2020 年）はこの第一段階目の目標年であるが、たとえば Times Higher Education が公表したアジアにおける最新（2019 年）の大学ランキングによると、第 1 位が清華大学（23 位）であり、以下、北京大学（24 位）、シンガポール国立大学（25 位）、香港大学（35 位）、香港科技大学（47 位）となっている（括弧内は世界ラン

キングにおける順位）。因みに、東京大学は第 7 位である。2015 年におけるトップ 5 が、東京大学、シンガポール国立大学、香港大学、北京大学、清華大学の順であったことと併せても、「双一流」政策の第一段階の目標は達成されたと言えそうである。

「方案」を受けて 2017 年 9 月 20 日に「關於公布世界一流大学和一流学科建設高校及建設学科名单的通知」として発表された、一流（を目指す）大学は 42 大学、一流（を目指す）学科を有する大学は 95 校である。両者を併せて 137 校が「双一流」大学と称される。河南大学は一流大学としては選からもれたが、一流学科を有する大学として双一流大学の仲間入りをした。具体的な学科は生物学科である。

もう一つのキーワード「省部共建大学」とは『百度百科』を参考にすると、中央政府に所属する部・委員会（日本の省庁に当たる教育部、財政部、国家衛生健康委員会など）と省・直轄市・自治区といった地方単位の行政組織（地方政府）が共同で設立している大学を指す。新中国建国以来、中国では大学はさまざまな省庁によって所管されていた。それが、教育制度改革を経て、中央政府に属する教育部とごく限られた省庁の所管する大学と、地方政府の所管する大学に分かれることになった。しかし、中央所属の大学と地方所属の大学とでは財務状況等で格差が生じたため、近年、中央と地方が共同で所管するという方式が生み出された。河南大学は 2008 年にそれまでの河南省のみの所管から、河南省と教育部が共同で所管する「省部共建大学」に格上げされた。

現在の河南大学は文学、経済、理学、工学から医学、芸術まで 12 分野の 37 学院（学部）を擁する総合大学である。教職員数は約 4,400 人、全日制の学生数は、大学院生 1 万人、留学生 700 人を含む約 5 万人である。全世界の 40 以上の国・地域にある 170 余りの大学と友好関係を結んでいる。

キャンパスは開封市に 2 つ（明倫キャンパスと金明キャンパス）、鄭州市に 1 つ（龍子湖キャンパス）の 3 か所に分かれており、総面積は約 5,500 ムー（畝）（約 3.67 平方キロメートル）である。このうち、鄭州・龍子

湖キャンパスは2012年6月17日に建設が始まり、現在も整備が続いている新しいキャンパスである。私はまだ訪れたことはないが、最近「微博」に投稿された動画を見ると、歴史的建築物を思わせる壮麗な校舎群もすでに完成し、利用を待つばかりとなっているようである。

河南大学の3つのキャンパスの中で、歴史的に重要なのは明倫キャンパスである。ここは開封市の中心からやや離れた場所に位置している。北は、『わんりい』誌(2020年6月号)の「中原旅行記(3)」で橋詰滋氏によって紹介されている「鉄塔」に隣接しており、東には明清時代の名残としての市街地を囲む城壁が走っている。

2012年、河南大学はその前身から数えて創立100周年を迎えた。1912年2月12日に最後の皇帝・溥儀が退位(遜位)を宣言し、260年以上続いた清朝が幕を下ろすとともに、2千年以上に亘る中国の封建君主制時代も終わりを告げた。それ以降、社会のさまざまな面で新しい時代に対応しようとする動きが本格化する。河南省では先進的な欧米に直接学ばなくてはならないという機運が高まり、この年の9月に河南大学の前身である「河南留学欧美(欧米)予備学校」が開設された。

開学の場所として選ばれたのが現在の明倫キャンパス、清朝の雍正九年(1731年)に建設された「科挙」の試験会場「河南貢院」である。当時、こうした欧米留学への準備を専門とする学校は、他に北京清華学校(現・清華大学)、上海南洋中学のみであった。なお、往時の「河南留学欧美予備学校」の校門は2002年、河南大学創立90周年を迎えるに当たって、明倫キャンパス内に復元されている。



復元された「河南留学欧美予備学校」校門(2005年9月 筆者撮影)

開学以来、中国全体が激動の時代を経験する中で、河南大学の変化も尋常ではない。創立100年に際して編纂された李文山(主編)・時勇(編著)『百年鏡像』(河南大学出版社、2012年)に従って単に校名の変遷だけを追っても「河南留学欧美予備学校」であったのは1922年までに過ぎず、その後は「中州大学」(1922~1927)、「河南中山大学」(1927~1930)、「省立河南大学」(1930~1942)、「国立河南大学」(1942~1953)(この間、抗日战争、国共内戦、新中国建国と続く中で一時期は「中原解放軍人民革命大学=中原大学」、「河南人民革命大学」と呼ばれていた時期もある)、「河南師範学院」(1953~1956)、「開封師範学院」(1956~1979)、「河南師範大学」(1979~1984)と実に目まぐるしく変化している。そして、1984年5月になってようやく現在の「河南大学」の校名になった(戻った)。

明倫キャンパスにある数々の旧跡やそれらを巡る歴史的事実の中でも特筆すべきは、最後の科挙の試験がこの場所で実施されたということである。キャンパス内には最後の科挙の試験会場(「河南貢院」の一部)が保存されているほか、6号棟(博文楼)には聚協昌博物館科挙分館という施設があり、科挙の歴史に関する貴重な資料が展示されている(私は2013年12月11日に見学した)。

以下、白婧・郭鵬(編著)『明清学子課業批改集』(聚協昌博物館刊、2013年)等の資料をもとに最後の科挙試験の経緯を確認したい。中国の封建君主制を支えた人材登用の仕組みである科挙制度は、西暦587年、隋の文帝によって創設された。その後、唐代、宋代と次第に制度が整えられ、明代に至って制度的完成を見た。科挙の試験全体は「童試」、「郷試」、「会試」の各段階と、最後に皇帝自ら主宰する「殿試」を含む。「童試」は科挙に参加しようとするものがまず受けなくてはならない試験である。「郷試」は3年に一度、8月に各省で実施される。「会試」は「郷試」が実施された年の翌年春に北京で実施される。

さて、1901年と1904年は「会試」の実施年に当たっており、それぞれの前年、すなわち1900年と1903年に「郷試」が実施されることになっていた。しかし、1900年7月20日に、義和団事件(中国では「庚子国変」)への介入を口実にイギリス、ドイツ、フランス、ロシア、

アメリカ、日本、イタリア、オーストリアの8か国連合軍が北京に侵入すると、21日未明、銃声が鳴り響く中、慈禧太后（西太后）は光緒皇帝を連れて紫禁城の徳勝門からかろうじて脱出し、遠路西安に落ち延びるといふ大事件が発生した。

この時は、慈禧太后は約1年後に北京に戻るようになるが、こうした混乱の中で1901年に予定されていた「会試」は1903年に延期され、試験会場も北京から開封に変更されたのである。開封が選ばれた理由は交通の便がよいこと、「河南貢院」は一万以上の試験室がある当時最大規模の貢院であったことなどが挙げられている。さらに、本来、北京で実施されるはずの北京地区の「郷試」も開封に場所を移して実施されることになったため、1902年には北京地区の「郷試」が8月に、河南地区の「郷試」は時期をずらして10月に同じ河南貢院で実施されることになった。すなわち、1902年には2回の「郷試」、1904年には予定どおり「会試」が、その前年の1903年には3月に「会試」が、8月と10月に2回の「郷試」と、わずか20か月の間に6回の科挙試験が開封で実施され、河南貢院は空前の多忙を極めた。こうして難局を乗り越えたかに見えたが、残念ながら、1905年9月2日、科挙制度は清政府により廃止され、1300年余り続いたその歴史もついに幕を閉じることになった。

明倫キャンパスには、この他にも歴史を感じさせるさまざまな見どころがある。一般に中国の大学内には、孔子様から毛沢東主席まで、さまざまな銅像、胸像が立っている。もうだいぶ以前のことになるが、初めて河南大学を訪れた2005年の9月8日、明倫キャンパスを歩いていると、一風変わった胸像（頭像？）を見つけた（写真参照）。それは陳独秀とともに中国共産党創設の立役



李大釗胸像(2005年9月 筆者撮影)

者であった李大釗（1889～1927）の胸像である。李大釗は1925年7月、河南大学の6号棟（博文楼）において「大英帝国主義による中

国侵略史」と題する講演を行った。この塑像は河南大学創立90周年（2002年）にそのことを記念して彫刻科の学生によって造られたものである。

また、明倫キャンパスには立派な正門（南門）がある。これは1936年に建造され、全国的な重要文化財として保護の対象となっている。キャンパスの外から見ると写真にあるように「河南大学」と書かれており、キャンパス側から見ると、「明德新民、止於至善」と書かれている。

この8文字は河南大学の校訓であり、儒教の経典『礼記・大学』における冒頭の一節「大学之道，在明明徳，在親（新）民，在止於善」からとられている。金谷治（訳注）『大学・中庸』（岩波文庫、1998年）に従うと、この部分の書き下し文は「大学の道は、明徳を明らかにするに在り、民を親しましむるに在り、至善に止まるに在り。」となる。また、日本語訳は「大学で学問の総しあげとして学ぶことは、輝かしい徳を身につけて、それを（世界に向けてさらに）輝かせることであり、（そうした実践を通じて）民衆が親しみ睦みあうようにすることであり、こうしていつも最高善の境地にふみ止まることである。」となる。

ただし、これは、3番目の部分を旧本どおり「親民」とした場合である。この「親民」を北宋時代の儒学者・程伊川が「新民」と読み改め、朱熹の『大学章句』もそれに従っている。河南大学の校訓も「新民」である。「新民」とした場合の書き下し文は「民を新たにするに在り」となり、この「新民」の意味は「旧習の汚れを改めること」である。「親民」と「新民」ではかなり違った印象を与えるが、校訓としてはやはり「新」の文字が含まれているほうがふさわしいであろう。

このように明倫キャンパスが歴史的な意味を持つ一方、金明キャンパスは河南大学の拡大に合わせて開封市の郊外に造られた新キャンパスである。2,000 ムー（1.33 平方キロメートル）の面積を有し、2001年10月15日に起工、2005年に基本的に完成した。『百年鏡像』には起工式の写真が載せられているが、そこには、当時河南省省長であった李克強・現総理の鍬入れ姿も写っている（李克強氏は1998年から2004年にかけて河南省に赴任しており、省長、共産党委員会書記等を務めている）。

テレサ・テン（鄧麗君）—(上)

和田宏

テレサ・テンは、1953年1月29日に台湾の南西部にある雲林県褒忠郷龍岩村で生まれました。父親・鄧樞が河北省出身の国民党軍の軍人で、国共内戦で毛沢東・朱徳の共産党軍に敗れ、蒋介石と共に台湾へ逃れました。台湾省の外からやって来た外省人であり、テレサの生誕地は、国民党軍の落人村である“眷村”と呼ばれる特別な所です。母親・趙素桂は山東省出身で柔和な女性で、終始優しくテレサを応援した理解者でした。兄3人と弟1人の男4人に囲まれた女の子でした。血液型はO型。

気性の激しい元軍人の父親は小売業などをしますが、どれもうまく行かず、生活力のない男。テレサの家は、幼い頃大変貧しく一家は各地を転々としました。テレサは、目の綺麗なぽっちゃりした丸顔で、人懐っこく誰からも好かれる性格でした。テレサが歌好きになったのは、母が黄梅調と呼ばれる地方劇の歌が好きで、よく口ずさんでいたからです。10歳でラジオ局の主催する黄梅調歌唱コンクールで優勝するなど、あちこちのど自慢コンクールで優勝しました。その時テレサは、賞が貰いたくてコンクールに出るのではなく、ただ歌いたいからだと話していました。本名は、鄧麗筠(denglijun)ですが、“筠”が難しいので、芸名としては同じ発音の“君”としました。姓のテンは、鄧の中国語発音に近い表記であり、名のテレサは、ローマンカソリック修道女のマザー・テレサから取って付けた自分の洗礼名を用いたようです。

テレサは、1967年14歳で、中学校を中退してテレビ局の専属歌手としてプロデビュー。台湾は勿論、シンガポール、香港、ベトナムなど東南アジアで、たちまち名声を博しました。一方、日本との関係では、日本が1972年に大陸中国と国交樹



前列左から弟・鄧長禧、母・趙素桂、父・鄧樞、本人・鄧麗筠
後列左から3兄・鄧長富、長兄・鄧長安、次兄・名前不明。

立して台湾と国交断絶したことや、台湾政府による日本語の使用禁止策、更に戦前、日本軍と戦った元軍人の父親の影響もあって、日本に対しては身近に感じていませんでした。

その上、日本国内ではイギリス領香港生まれでイギリス国籍のアグネス・チャン（陳美齡）や台湾出身のオーヤン・フィフイ（歐陽菲菲）が、一足先に中国人歌手として人気を集めていたこともあって、訪日を躊躇していましたが、1974年、21歳の時、『今夜かしたら明日かしたら』で日本でも歌手デビューし、本格的な活動を開始。デビュー第2作『空港』が大ヒットし、この年のレコード大賞新人賞はじめ、多くの賞を受賞しました。



ところが、国交を多く持たない台湾のパスポートでは、不便なことが多いためインドネシアの不正パスポートを所持していて1979年偽造パスポート事件を起こし、日本での活動は一時休止となりました。1983年、中国伝統の歌を発表して再起を計ります。1984年、5年ぶりに来日し、『つぐない』を歌って日本有線大賞グランプリなどを受賞、見事に甦りました。1985年大晦日のNHK紅

白歌合戦に初出場を果たし、『愛人』を歌いました。翌1986年は『時の流れに身をまかせ』を、また5年後の1991年にも『時の流れに身をまかせ』を歌い、計3回紅白歌合戦に出場。NHK職員だった私は、歌謡番組などの担当ではなくニュース部局所属でしたので、残念ながらテレサと局内で遭遇することはありませんでした（笑）。

テレサは、1970～90年代が歌手として全盛期であり、“アジアの歌姫”と言われ、中国人華僑が住むあらゆる国・地域で愛されました。テレサは、歌は勿論、語学の勉強も大変熱心で、中国語の普通話、広東語、福建語、山東語を話せ、英語、日本語、フランス語、マレー語などを自在に話すことが出来ました。アメリカのポピュラーソング、ジャズやフォークソングなども歌っています。大陸の中国人達は、昼は鄧小平の演説を聞かされ、夜は鄧麗君の歌をこっそり聴くと言われました。中国語では、“白天聽老鄧、晚上聽小鄧”と言います。

皆さんは、テレサの歌う歌の中に、『但願人長久』とか『独上西楼』とか言う歌があるのをご存じですか？ この難しい曲名に戸惑うのではないのでしょうか？ 『但願人長久』は、宋王朝時代の詩人・蘇軾の作ったもの。『独上西楼』は、五代十国時代の南唐の王・李煜の書いたもの。テレサが歌うことによって千年前の古典の詩を現代に蘇らせました。話は逸れますが、クラシック作曲家グスタフ・マーラーが作った『大地の歌』という声楽を伴った交響曲は、李白や孟浩然、王維らの漢詩がフランス語からドイツ語へ翻訳され、その詩をマーラーが読んで感動し、適宜改変しながら曲を付けたものです。“私は3重の意味で故郷が無い人間だ。”と言っていたマーラーの東洋的な無常感・厭世感が漂った曲です。

テレサは、晩年、世界のどこに行っても“私はチャイニーズです。”と言い、台湾と大陸だけでなく、世界中に住む中国人を一つに結びつけることに喜びや生き甲斐を抱いたようです。両親を何とかして大陸の故郷に連れて行ってやろうという夢を持ち続け、大陸でのコンサートの日程も決まりました。しかし、1989年5月27日、香港のハッピーヴァレー競技場に約30万人が集まり、北京の民主化運動支援マラソンコンサートの生中継をテレビで見ているうち、テレサは、居ても立ってもいられなくなって、タクシーで会場に駆け付け、飛び入り参加。黒いサングラスを掛け、『民主萬歳』という鉢巻をし、『反対軍管』と書かれた紙を首から下げて、“大陸の民主化実現に向けて



1989年5月27日、香港ハッピーヴァレー競技場で

共に努力しましょう！ この歌はこれまで余り歌ったことが無いので、皆さんは知らないでしょうが、歌を聞いて私の心情を汲んで下さい。”などと挨拶し、“家は山の向う（我的家在山的那一边）”を歌って声援を送りました。歌い終わった瞬間、テレサは感極まった叫び声を上げています。この歌は、台湾で作られたいわゆる大陸反攻ソングです。

直後の6月4日には、北京天安門前広場では、民主化要求する学生らは出動した戦車によって踏み潰されるなど、皆さんご存知のように多数の死傷者が出たのです。

この『第2次天安門事件（六四天安門事件）』は、テレサに強い怒りと悲しみを与え、自由を抹殺する北京政府に絶望しました。大陸中国が民主化しないうち行かないと心に決めたようです。金門島を訪れ、テレサの歌が録音されたテープを風船に付けて大陸方面へ飛ばしたり、大陸に向けて“大陸の同胞たちが私達と同じ民主と自由を享受出来ることを期待します。”と放送したりしています。

（続く）

私の話は、前回で終わる筈でしたが、編集者に唆されて失敗談で締めくくる羽目になりました。

●最大のドジ

DC8 型機の機長になり、国際線の乗務にもようやく慣れてきた頃のことです。貨物機の臨時便でアンカレッジからニューヨークの乗務をすべく、乗務前日に旅客としてアンカレッジに着きました。暫く休んでから友人とアイススケートをしに室内リンクに行き、激しく壁に衝突転倒して足首を痛めてしまいました。すぐ病院に行くと受付でまず尋ねられたのは、有効な健康保険証とクレジットカードの所持でした。それが確認できないとどんなに痛くても検査してくれません。アメリカではご存知かもしれませんが国民皆保険はなく、健康保険を必要と考える人は自分で健康保険を買うのです。私は直ちにアンカレッジ空港の日本航空の事務所に電話して、健康保険の所持を受付に認めて貰いました。それから医師の診察を受けることが出来、レントゲンを撮ったところ足首を骨折していることが判りました。その医者が“明日の操縦は無理でパーサーですよ”と冗談を言いましたが、私は可笑しくありませんでした。これで明日の仕事に乗務できないことになりました。「マズった」と思っても取り返しはつきません。心を落ち着かせて、会社の事務所に骨折して入院したこと、明日のニューヨーク行きの乗務は出来なくなったことを伝えました。この日に偶然ニューヨークからアンカレッジまで臨時便に乗務し、翌日東京に帰る予定の先輩機長がおり、その機長が再度ニューヨークまでの乗務を承諾してくれたので、私が乗務予定していた貨



朝に紅顔ありて、夕にベテラン機長あり

物便は止めずに済みました。その先輩機長が黙って飛んでくれて、有り難い気持ちでいっぱいでした。入院した日は痛み止めの薬を飲むだけで過し、足を高く釣って寝ました。翌日の手術の前に執刀担当医と麻酔医が説明に来られ、手術の方法や内

容を詳細に説明してくれました。質問はないか？ と言うので、この手術の危険性や医師の手術経験などを尋ねましたが丁寧に答えてくれました。麻酔医もどのような麻酔をするか、麻酔の危険性などをしっかり説明してくれました。今では当たり前のインフォームド・コンセント（手術前の説明）が、約40年前のアメリカでは既に定着していたようです。それから手術の同意書にサインを求められました。生まれて初めての手術と入院とをこんなところで経験することになりました。アンカレッジ

では3日間の入院で退院しました。入院中の生活は、手術後の痛み以外はとても快適で、食事毎に次の食事のおかずの選択や食欲の有無を訊かれ、パンを2枚食べたいなど自分で決めました。私は退院手続き後、病院から直接空港に行き、自社の旅客便で成田まで戻ることになりました。車椅子に乗り客室乗務員の助けを借りて飛行機に乗りました。日本に帰国後、乗務は3か月間休みました。手術と3日間の入院の医療費で170万円も掛かったのでは、日本の健保組合から「特別室に入院したのではないか、何故それほど高額なのか、」と何度も尋ねられました。乗務の復帰に際しては、医師から乗務に支障ないとの診断書を発行して貰い、シミュレーターにより飛行経験を満たすための再訓練を受けました。機長として乗務するには過去

3 か月以内に3回以上の離着陸経験と、計器飛行、夜間飛行の経験がないといけないのです。その後主席機長に、国内線に復帰して大丈夫かの最終確認飛行をして頂き、通常の乗務に復帰しました。

●ドジその2 ゲートをミスしました

国内線では1日3便くらい飛ぶことがよくあります。その日は大阪伊丹空港に到着し、次のフライトまで2時間程時間が有りました。乗員には次の便の出発30分前に飛行機に集まるよう指示しそれまでは自由行動としました。私は出発の45分くらい前に操縦席に戻り、本を読みながら副操縦士や客室乗務員を待っていました。しかし出発の30分前になっても誰も飛行機に戻ってきません。如何したのだろうと気をもんでいるうち20分前になりました。このときやっと自分が間違えて隣の飛行機に座っていることに気がつきました。伊丹空港では2カ所の搭乗口が一つの橋を共有し、先端で二つに分かれています。私は間違えて、隣の搭乗口から同じDC8型機の操縦席に座っていたのです。飛行機の登録番号が異なっているのに確認をしなかったのです。自分はまさか搭乗する飛行機を間違えたとは思っていませんでしたから、やきもきしながら他の乗員達を待っていたのです。時間が迫って間違っていたと気がつき焦りながら自機に戻ったとき、客室乗務員は拍手しながら笑っていました。私がとなりの飛行機に間違えて座っていたのをきっと知っていたのです。操縦席では既に出発準備をしていた副操縦士と航空機関係士が、気遣って私の顔を見ないようにしていました。何とも間の抜けた恥ずかしい経験でした。

話は変わりますが大阪弁の英語というのがあります。発音と話すリズムとかイントネーションが微妙に混ざり合うので英語が大阪弁になるのです。飛行機の管制は世界中英語を主にし、各国は自国語の使用も許容しています。日本でも全ての空港で、外国機が来ないような空港でも英語で管制しています。こんな中で大阪弁の英語は外国のパイロットにも問題なく通用しています。大阪弁の英語を話す管制官がいて魅力的でした。一緒に飛んだ副操縦士の中にも、関西出身者がいて上手に大阪弁の英語を話すので、私も真似てみまし

たがだめでした。大阪弁の英語は優しく聞こえるので私は好きなのです。

●羽田から成田へ15分の珍フライト

不測の事態にそなえて、機種毎に一組の機長と副操縦士が毎日羽田のオペレーションセンターで待機しています。ある日、私が羽田のオペレーションセンターで待機をしていると、強風で成田空港に着陸出来なかったヨーロッパからの便が羽田にダイバート(目的地の変更)して来ました。社内規定により、疲労している操縦士に替わり待機していた私とその飛行機を成田まで操縦することになりました。私と副操縦士は直ちに運航管理室に行き、この飛行機を成田まで戻すフライトの準備を始めました。いくら近くても成田の天気と予報、航空情報、飛行機の整備状況、搭載燃料など通常のフライトと同じ準備をします。成田までの予定飛行時間は15分位でした。25年前の羽田の国際線は、国内線ターミナルの横に2機駐機できる駐機場と小さな国際線専用ターミナルしか有りませんでした。運航管理室で準備を終えるとこのターミナルで出国、税関を通り飛行機に向かいました。成田までの飛行は国際線なのです。客室乗務員には交代がありません。飛行機は車と違い鍵一つでエンジンをかけて出発することは出来ません。副操縦士はエンジンを始動する前にコンピューターに飛行機の重量や、エンジン離陸推力の設定、搭載燃料、出発方式等々多くの情報を打ち込みます。機長は飛行機の外部の目視点検をします。その他の機材の点検も済ませてやっと出発することができます。機内のお客様には離陸前に、簡単に飛行情報をお知らせしました。羽田を離陸すると2000メートル位上昇し、その後直ちに着陸準備に入ります。飛行している時間より空港内を走行している時間の方が長かったです。機長と副操縦士は、羽田から出国し、15分間のフライトで成田に入国。

帰宅には、成田空港駅から30分に1本のJR快速電車で2時間かけて横浜駅へ、更にタクシーに乗って1時間、都合3時間かかりました。長い乗務経験の間には、こんな珍しい体験もありました。

今回のシリーズはこれでお終いとします。機会があれば、またお目にかかります。

中国語学習仲間が私にこんなクイズを出したことがあります。

《中国語クイズ》ここに2つの文があります。

1. 【A】是【B】。 2. 【A】不是【B】。

例えば、

1. 【我女朋友】是【中国人】。(僕のガールフレンドは中国人だ。)
2. 【我女朋友】不是【中国人】。(僕のガールフレンドは中国人じゃない。)

このとき、1つ条件があって、主語となる

【A】が不明確な人・物・ことの場合は、同一の人・物・ことと考えるということです。例文の主語の【我女朋友】は、1人の人を明確に指す言葉ではないので、1.の【我女朋友】と2.の【我女朋友】は同一の人と考えるということです。

このような2つの文は、一般的に、どちらか一方の文の内容が正しければ、他方の文の内容は正しくないこととなります。しかし、【A】と【B】に入れる言葉をうまく選べば、どちらの文の内容も正しいという文ができます。その文を考えてください。【A】にどんな言葉を持ってくるかがキーポイントです。

このクイズの解答例は最後に示すこととして、このクイズによって触発されたことがあります。それが今回のテーマ、《文中に【不(bu4)】が有っても無くても、意味が変わらない文》です。

中国語を少し勉強した人なら、【好容易(hao3rong2yi4)】 = 【好不容易(hao3bu4rong2yi4)】に出会ったことがあると思います。1992年に「小学館」から発行された、北京・商務印書館との共

同編集による「中日辞典」によると、【好容易、好不容易】：〈副詞〉やっとのことで、ようやく、やっど。【好(不)容易才把这个工作干完了/やっとのことでこの仕事をかたづけた。

どうしてこんなことになるかという、【好不(hao3bu4)】という言葉に関係があります。本辞典には、

【好不】：〈副詞〉とても、なんと…だろう。【知道他考上了大学，我好不高兴/彼が大学に受かったと聞いてとてもうれしかった。

本辞典は、意味だけでなく使用上の注意点にも言及しており、中国語学習者にはとてもありがたいものです。本辞典にはこうあります。〈注意〉上記の例文に用いた“好不”は“好”と取り替えることができる。たとえば“好热闹”と“好不热闹”はいずれも“很热闹”(たいへんにぎやかである)の意味で肯定的である。ただし“容易”については“好”または“好不”のいずれを用いてもその意味は否定的になって“很不容易”を意味する。たとえば“好容易才找着他”と“好不容易才找着他”はいずれも「やっとのことで彼を捜し当てた」ことを表す。

このほかにも何かないかと「中日辞典」を一通り調べてみました。いくつか見つけたのでみなさんにご紹介したいと思います。

●【果然(guo3ran2)】と【果不其然(guo3bu4qi2ran2)】

【果然】：〈副詞〉果たして、やはり、案の定、思っていた通り。【午后阴云更浓，果然下雪了/

午後になって黒い雲はあっそう濃くなり、案の定雪が降ってきた。

【**果不其然**】：〈成語〉果たして、予想していたとおり、案の定、やはり。“果不然”ともいう。『我早知道他干不了，果不其然，弄错了吧？／あの人の手にあまることはとっくに分かっていたが、やっぱりしくじったろう。』

●【**了得(liao3de)**】と【**了不得(liao3bude)**】

【**了得**】：（驚きや詰問の口調を表す文の終わりにつけて事態が重大で收拾のつかないことを表す）たいへんだ。“还(hai2)了得”の形で反語文に用いることが多い。『你这么干还了得！／おまえはとんでもないことをやったもんだ。』

【**了不得**】：（状況が差し迫っていて收拾がつかないことを表す）たいへんだ。“可了不得”の形で強調することが多い。『可了不得啦！老大娘晕过去了！／いやたいへんだ、おばあさんが気を失った。』

【**了得**】と【**了不得**】は、それぞれの使い方に違いがあるので、同じ文の中で取り替えるのはできないようです。

上に挙げた3例の語は、“不”が、語の中に入っている形ですが、最後の例は文中に“不”が入るものです。

●【**难免(nan2mian3)**】：免れない、避けられない、…しがちだ。

この語が動詞の前に用いられる場合、動詞の前に“不”を付け加えても意味は同じで、否定にはならない、とあります。例えば、『没有经验，就难免会犯错误(=难免不犯错误)／経験がないと、まちがいを犯すことは免れない。』『不说清楚，就难免被人误会(=难免不被人误会)／はっきり言っておかないと、人に誤解されやすい。』

それでは、始めにのせた《中国語クイズ》の解答例を上げます。ここで解答例と言っているのは正解が一つではないからです。

【A】を【**这个句子**】とします。「この文」という意味です。【**这个句子**】によって、今まさに作ろうとしている文自身を指し示すようにするのが、この問題のキーポイントです。次に、【**是**】と【**不是**】との違いに注目すると、以下のような解答例が得られます。

■解答例 1：

1. 【**这个句子**】是【**肯定句**】。(この文は肯定文である。)

【**这个句子**】は、ここでは、【**这个句子是肯定句**】という文を指しています。内容は合っています。

2. 【**这个句子**】不是【**肯定句**】。(この文は肯定文ではない。)

【**这个句子**】は、ここでは、【**这个句子不是肯定句**】という文を指しています。この文は否定文になっていますから、この文の内容も合っています。

■解答例 2：

1. 【**这个句子**】是【**由十三个字组成的**】。(この文は13個の文字でできているのだ。)

【**这个句子**】は、ここでは、【**这个句子是由十三个字组成的**】という文を指しています。数えてみると確かに13文字です、内容は正しいです。

2. 【**这个句子**】不是【**由十三个字组成的**】。(この文は13個の文字でできてはいない。)

【**这个句子**】は、ここでは、【**这个句子不是由十三个字组成的**】という文を指しています。“不”が加わって14文字になっているので、この文の内容も正しいです。

私、昭和22年生まれ73歳の爺です。母は95で存命、祖母は111歳まで生きました。ひょっとしたら私も100歳まで生かされるかとも思い、健康法には積極的。現在は、鶴川・柿生・新百合ヶ丘・成瀬・鶴間の真向法教室で健康体操を教えさせていただいております。

このたび「わんりい」で私の健康法についてご紹介する機会をいただき「非常感謝」です。

私のモットーは「スッカリさん」。体・心・脳の三つを柔軟にし、スッカリ、健康に生きようです。今日はそのようになるための私なりの方法について簡単にご紹介します。乏しい年金暮らしの私でもできる、金と時間がかからず、効果がある、早い・安い・美味い、まるで牛丼のような方法ばかりなのでご安心ください。

1) 体を柔軟にし、スッカリさせる方法

百まで健康のためには、自力歩行できるだけの足腰の筋力と柔軟性を保つ方法が重要です。

幸い筋力も柔軟性も毎日すこしずつやれば何歳からでも向上することがわかっています。

①真向法^{まっこうほう}：真向法は日本発の超シンプルヨガです。股関節を中心にしたわずか4つの柔軟体操で足腰の動きをしなやかにし、生涯自立した生活を保てる心身づくりをめざしています。これを朝夕5分行うことにより、萎縮した筋肉や神経を蘇らせ血流を改善し、体の隅々まで酸素や栄養をいきわたらせます。その結果各器官もよみがえり、活力が湧き、心身ともに健康に導かれます。85年の歴史があり、昔から、政治家、財界人、文化人など著名人にも愛好者が多いことで知られています。町田、川崎、相模原にもサークルがたくさんあります。

②貯筋運動：鹿屋体育大学学長福永氏が提唱する高齢者向け足腰筋トレ。器具を使わず、貯筋運動の歌を歌いながらスクワット、爪先立ちなど5つの動作をするだけの手軽なものです。歌詞にある「バスにさよなら、貯筋で貯金」は本当です。バス代浮かせて歩きましょうです。

2) 「頭スッカリさん」になる方法

年をとって頭を使わないと頭の血めぐりが悪くなり、認知症が忍び寄ります。

できれば上達性、創造性のある趣味をもつと継続の

モチベーションも上がりますね。

①俳句：こんなに安上がりで、楽しくて、効果的な脳トレはないと思います。「プレパト」が大人気です。散歩しながら一句たしなみ、仲間と句会で切磋琢磨し、わいわいやっています。

②楽器・歌：ハーモニカサークルで唱歌演歌などの独奏・合奏をやっています。ハーモニカは一本持ち歩けばいつでも楽しめます。練習後の540円で一杯やる「反省会」がまた楽しい。

③外国語：13年前に上海旅行にいった仲間と中国語の勉強を創めました。今は町田と向ヶ丘遊園の二つのサークルで月3回。中国人との交流もでき、よい刺激になっています。

3) 「心スッカリさん」になる方法

①笑いヨガ：「人生は四苦八苦、苦の連続なり。過去・未来を思い悩まず現在に集中すべし」とはお釈迦様の教え。悩み多き現代、私のお勧めは、笑うトレーニング、笑いヨガです。

でもどうやったら悩みがあっても笑って暮らせるのか？

簡単です。おかしくなくても、つらくても笑う体操をすればいいのです。ハハハハハ～！と明るく笑うまねをすると、途端に気分が明るくなります。その際「いいぞ、いいぞ、イエーイッ！」「やったー、やったー、イエーエイッ！」と万歳しながら元気よくさげびます。

するとあら不思議、たちまちご機嫌な人にも変われるのです。

紙数が尽きました。結論です。

「生命在運動」＝使わない自転車は錆びる。「病は気から」＝病気や不安ばかり気にしていると病気、不運を引き寄せる。「笑門来福」＝何があっても、笑い飛ばせばよくなる。

以上、体・心・頭「スッカリさん」になる私なりの方法。ひとつでもやってみようと思ったかたは、サークルをご紹介します。寺西さんに私のアドレスを聞いてメールをください。

「いくつになっても創めることを忘れなければ人は老いない。」（日野原重明）

第30回 中国文化之日
日中友好会館所蔵中国書画展

～色褪せない墨の美～

- 会期：9月26日(土)～10月18日(日) ▲水曜休館 入館無料
 - 会場：日中友好会館美術館 <http://www.jcfc.or.jp/shisetsu/museum>
 - 時間：11時～16時
 - ギャラリートーク：参加無料・事前申込制・定員20名
▲10月3日(土) ▲10月15日(木) 両日とも14:30～15:00
- ✿書画家・趙龍光氏が出展作品の魅力と楽しみ方について日本語で解説します。

上記に関するお問い合わせ先：公益財団法人日中友好会館 ☎：03-3815-5085

中国文化之日：公益財団法人日中友好会館では、1990年から毎年、中国の文化芸術を展覧の部と公演の部の二部構成で紹介するイベント「中国文化之日」を開催しています。上記ご案内は、今年の展覧の部です。公演の部に関して、今年はコロナ禍の状況下で、生公演は中止し、下記要領でオンラインの無料配信に変更されました。

【公演名】～優美と躍動のコントラスト～ 二胡と和太鼓の共演—無料配信

【配信サイト】動画共有サービス<YouTube> 特別収録のオリジナルコンサート動画配信

【配信開始日】2020年 11/15(木) 正午より配信開始

開始後は何時でも何度でも再生可能～

(YouTubeチャンネル名「JCFC Museum」で検索)。

【鶴川水墨画教室】体験のお誘い

気楽に教室を覗いてみよう！季節の花などを水墨画で描いてみませんか!!

- 体験参加費 1000円 (見学無料)
(手ぶらで参加OK!)
- 第2または第4月曜日
14:00～16:00
- 会場：鶴川市民センター
町田市大蔵町1981-4
*駐車場あり
- 講師：満柏
(日中水墨協会・会長)
- ◆問い合わせ：
☎042-735-6135 (野島)



中国の笑い話 45 「365夜笑話」より

第153話 穴が残る

先生が小学生に算数の問題を出しました。

先生：「皆さん、計算してみましょう。4引く2は幾つですか？」

生徒：「先生、2です。」

先生：「良く出来ました。それでは10引く10は幾つですか？」

生徒：「分かりません。」

先生：「では、一緒に考えてみましょう。ポケットの中にコインが10個ありましたが、10個落ちてしまいました。ポケットの中にはいくつ残っていますか？全部なくなりましたね！」

小明：「先生、ポケットの穴が一つ残っています。」

【わんりいの催し】

♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体のを抜いて気持ちよく発声しよう！
声は健康のバロメーター！！

動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館・視聴覚室
- 日時：10月20日(火) 10:00～11:30
11月17日(火) 10:00～11:30
- 講師：Emme [エメ] (歌手)
- 会費：1,500円 (講師謝礼・会場費)
- 定員：15名 (原則として)
- 申込：☎042-735-7187 (鈴木)

~~~~~

### ❖❖ 中国語で読む 漢詩の会 ❖❖

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう！  
録音機をお持ちの方はご持参ください。

- 会場：まちだ中央公民館・視聴覚室
- 日時：10月25日(日)  
11月29日(日)  
いずれも 10:00～11:30
- 講師：植田渥雄先生  
桜美林大学名誉教授  
現桜美林大学孔子学院講師
- 会費：1,500円 (会場費・講師謝礼)
- 定員：20名 (原則として)
- 申込：☎090-1425-0472 (寺西)  
Email:ukiuki65jppj@yahoo.co.jp  
(有為楠)

#### ■10月定例会

▼10月13日(火)13:30～  
三輪センター 第三会議室

#### ■‘わんりい’ 発送

▼11月号発送は11月2日(月)10:30～  
三輪センター 第二・第三会議室  
(弁当持参)

### ——編集後記——

今年の中秋節は10月1日です。昔、中国の人々は、月がどこからでも見えることから、澄み切った夜空に浮かぶ満月を眺めて、遠く離れた人との一体感を感じました。都会に出た人は故郷の人々の無事を思い、故郷の人々もまた、遠く離れて暮らす家族の無事を月に祈りました。名月を愛でながら、月に似せたお菓子・月餅を食べて、お互いの心を通わせる縁としました。

そんな奥ゆかしい習慣が、経済の発展と共に企業の贈答用に利用され、派手な包装で値段も1000元を超えるようなものまで出てきました。中国政府の過剰包装禁止・虚礼廃止の指令が出て、高騰は収まりましたが、今でもこの季節になると、月餅の包みを携えて企業回りをする人々を見かけます。

月餅に限らず、人間は経済が絡むと、「ほどほど」ということを忘れて突き進み、自然を脅かす危険な動物になる心配があります。

～・～・～・～・～・～

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します  
年会費：1800円、入会金なし  
郵便局振替口座:00180-5-134011 わんりい  
9月以降の入会は、当年会費1100円。  
■問合せ：044-986-4195 (寺西)

### ‘わんりい’ 257号の主な目次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 寺子屋・四字成語(36)鵲蚌相争……………     | 2  |
| 「日译诗词」(6) 李白の詩・二首……………    | 3  |
| 「漢詩の会」だより 41 陳子昂・駱賓王…………… | 4  |
| 中国の歴史を彩る美人百花(3)……………      | 7  |
| 「中原」雑感(6)河南大学……………        | 9  |
| テレサ・テン(鄧麗君)(上)……………       | 12 |
| 退職ジャンボ機長の回想⑩……………         | 14 |
| 「中日辞典」からの意外な発見その3……………    | 16 |
| これであなかも「スッキリ」さん……………      | 18 |
| 「中国文化之日」・「水墨画教室」案内……………   | 19 |
| ‘わんりい’の催し・入会案内……………       | 20 |